

発行日： 平成30年 9月18日

発行者： 今村証券株式会社

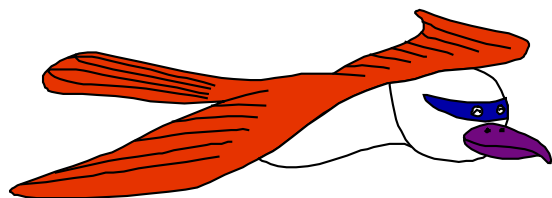
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

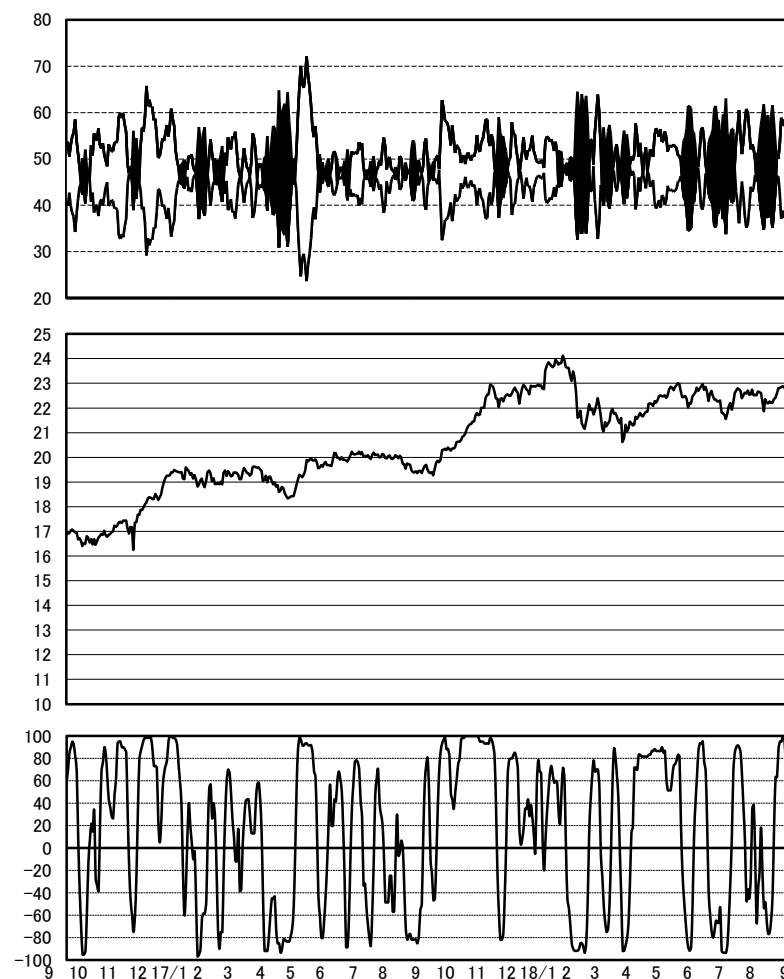
制作責任者： 営業業務部 調査課

情報シャトル特急便

第628号



Dynamic Psychological Ratio 9



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
下図はRCI（9日ベース）で、 -80%ラインを上につき抜け→買い場
80%ラインを下につき抜け→売り場

大 所 高 所

リーマンショックから10年が過ぎ、これを記念して様々な回顧記事が紙面を賑わせている。だがその大部分は新発見に乏しく物足りない。ところが先週火曜日に、日経証券部次長の川崎健氏の書いた「一目均衡」欄の内容には、えっと思わせるものがあった。

これまでは、リーマンショック後に買収したリーマンの欧州・アジア事業の失敗とインサイダー問題で、野村ホールディングスは累卵の危機に陥り、その責任を取って渡部賢一氏は社長の座を追われた、とされていた。…しかし実は、渡部氏の前任者古賀信行氏の時代に、野村は米国の住宅ローン証券化商品などを大量に抱えるなどレバレッジ商品にどっぷり漬かっており、絶対に潰れる危機にあった、これを知った渡部氏は古賀氏を追放し、リーマン買収・損失処理・公募増資を立て続けに実施して危機を脱した。もしリーマン買収を梃子に世界に打って出るというエクイティストーリーが無ければ、7千億円余りの公募による損失処理は無理だったろう、と言うのだ。これまでの古賀善玉・渡部悪玉の定説を逆転させる新説の登場だ。

危機を脱した野村に対して川崎氏は、「この国の直接金融の流れを少しでも太くするのが、銀行の支配下に無い野村の責務だ」とエールを送っている。私も同感、血が騒いだ。

(B I S)

た だ 一 筋

先週末の日経平均株価の終値は、前日比 273 円 35 銭高の 2 万 3094 円 67 銭となった。約 7 ヶ月ぶりの高値となり、これまで何度も跳ね返された 2 万 3000 円台に乗せたことで、市場のムードも大きく好転してきたようだ。

米中の貿易摩擦の激化は一向に収まりを見せない状況だが、中国や新興国の株価水準も予想 P E R で 10 倍程度まで下がっており、予想 P E R 13 倍程度の日本株に対し割安感が出てきた。また、アジア株ヘッジの目的で売られていた 225 先物などにも買い戻しが強まる可能性も出てきたのが要因と見られる。

ただ、急ピッチな上昇に加え、米中貿易摩擦、新興国通過下落も依然として燻っていることから、ここからの一本調子の上昇は期待できないが、「押し目は買い」の姿勢は強く持っても良いのではないか。

物色面では、ここ数年間、上昇が続いた半導体関連株には割高感があり、米フィラデルフィア半導体株指数も不安定な動きとなっていることから、買い手控えたい。一方、好決算から上昇トレンドを形成しているソニー (6758)、ソフトバンクグループ (9984) は押し目買いを、また、低位株では東芝 (6502) に注目。11 月に中期経営計画「ネクストプラン」の公表を予定しており、その後、7 千億円の自社株買い実施や 4 年ぶりの復配も考えているようだ。

(三感王)

当 たり 屋 見 参

日経平均がようやく 23,000 円台を付けてきました。相場が崩れるかと思えば持ち直し、証券マン泣かせの難しい相場が続いていますが、その中で個別銘柄を紹介させていただきます。

ペット関連ビジネスが近年広がっており、家族の一員として生活している人も多いと思います。昔はペットを家の外で買っていた人が多かったように感じますが、近年は家の中で一緒に生活し、ペット一匹にかかるお金も増えてきているのではないのでしょうか。そうした風潮の中で今年 4 月に上場したペットの保険を手掛けているアイペット損害保険 (7323) に注目です。

その他、保育所や待機児童問題での関連銘柄で、グローバルグループ (6189) にも注目しています。首都圏を軸に保育所を展開している会社です。どこにでもありそうなビジネスではありますが、この会社の特徴は、企業同士による保育所の定員枠の融通を後押ししている「えんマッチ」というシステムを導入している所です。保育所のシェアリングを先導しているシステムであり、魅力的に感じます。

(No. 8)

老練の視座

日経平均株価は 23,000 円台を超えたものの、東証 1 部の価格帯別売買代金をみると、22,500 ～ 23,000 円が約 130 兆円と最も多く、日本株上昇の壁となっています。目先の材料としては何ととっても 20 日の自民党総裁選。安倍首相の 3 選となれば、政治の安定を好む海外勢の買いが期待できるとの見方があります。また、9 月末の配当権利取りの動きも期待でき、底堅い展開となりそうです。

いずれ e スポーツはオリンピックの種目になる、そんな話題がテレビや新聞で取り上げられるようになっていきます。コンピューターゲームをスポーツとして競い、海外では賞金 1 億円を超える大会もあります。競技人口は世界で 1 億人以上とされ、日本でも参入企業が相次いでいます。日本人プロ選手の海外での活躍や関連イベントも増えており、e スポーツの今後に注目してはいかがでしょうか。

格闘ゲームの世界大会を開くカプコン (9697)、プロ野球 e スポーツ参入のコナミホールディングス (9766)、e スポーツ業界団体に加盟したアイ・オー・データ機器 (6916)、e スポーツ番組配信のサイバーエージェント (4751) などに注目したいと思います。

(JOY)

き ら き ら 星

日経平均株価は先週末メジャーSQ算出を通過、5月21日以来の2万3000円台で終わり、為替も8月1日以来となる1ドル＝112円台に乗せました。米中間選挙予備選終了、米中通商協議の新会合開催への動き、トルコ大幅利上げを受けてのリラ急反発、自民党総裁選後の補正予算編成期待などが上昇のきっかけとなったようです。政治の安定性、企業業績から見た割安感などから今後2万4000円突破に向けての動きを期待します。

不安が解消された訳では無く、多々存在しますが、9月15日がリーマンショックから10年の日であった為に、日経新聞でもリーマン危機10年の連載が行われています。その中でマック・モルガンスタンレー前CEOが「今日の最大のリスクはサイバーセキュリティだ。」と語っていました。情報量が覇権を握る現在、サイバーセキュリティが最も大きなリスクであると私も考えています。

個別銘柄では、企業へのサイバー攻撃を監視するセキュリティソリューションサービスを行うラック(3857)に注目しています。また、安全・安心への取り組みからセコム(9735)にも注目です。
(おけや)

デジタルの俯瞰

猛暑もようやく一段落し、今年も四季報の秋号が発売された。今号も全てのページにパラパラと目を通してみたので、目についた銘柄をいくつか紹介しよう。

まずグレイステクノロジー(6541)。産業機械マニュアルの作成が主力の銘柄だが、会社予想よりも、四季報予想は大幅に強気。営業利益、純利益もさることながら、売上高が大幅に強気に出ているところが頼もしい。四季報の見出しには「独自増額」の文字も見え、ここに四季報記者の意図が見て取れる。

次に浅沼組(1852)。建設株全般的に「労務費上昇」や「頭打ち」、「減配」などの見出しが並び、一見するとあまりいい印象はない。ただ、冷静に数字を見ると、四季報予想が会社予想よりも強気に傾いている銘柄が多いのも建設だ。会社予想が過剰に保守的になっているからだろう。補正予算期待もあり、巻き返しに期待。

黒田精工(7726)。「増額」の見出しに加え、「ボールネジ絶好調」の文字も見える。増配も待っているが、それより何よりも、18年3月期から19年3月期にかけての変化率が目に見えて大きい。収穫期に入るのかも知れない。

最後に、ゼンリン(9474)。いわずと知れた日本最大の地図情報会社だが、年々着実に、売上高、営業利益、純利益をじわりじわりと伸ばし続ける優良企業。純利益は16年3月期から見ても既に2倍になっているが、まだ成長余地はありそう。地図情報を独占的に持っている強みがこれからも発揮されるだろう。(パブリカ)

アナリストによる北陸企業便り

(近藤浩之)

＜タカギセイコー＞

2019年3月期第1四半期は2割弱の増収ながら2割弱の営業減益。成形品事業における車両分野の受注数量が増加したものの、減価償却費や人件費などの固定費の増加、製品構成の変動が悪影響を及ぼした。通期の会社予想に対する進捗率は、売上高で25.3%、営業利益で17.6%と利益面が出遅れている。車両分野で新規案件の立ち上げ費用が嵩み、金型事業の販売が想定を下回っているようだ。今年2月に出荷を始めた針無し注射器の樹脂部品は、まだ米食品医薬品局（FDA）から販売承認を得られておらず、販売が滞っている。

こうした状況が第2四半期以降も続くと想定すれば、今期の売上高は前期比+約1割の570億円程、営業利益は同▲約1割の23億円程、EPSは370円程が予想される。売上高が会社予想から40億円程上振れるのに対して、営業利益が2億円弱、EPSが20円下振れるとの予想である。

株価は軟調だ。先週末14日の終値は2,014円で、昨年10月に付けた上場来高値4,940円からはほぼ6割安い。今期利益の下振れを予想しているとはいえ、EPS予想370円程を基にした予想PERは5.4倍であり、株価は売られ過ぎの印象を受ける。来期は、車両分野の堅調な受注、針無し注射器の販売の本格化を背景に、3期ぶりに営業利益は増益に転じ、26億円程を見込む。投資判断はOUTPERFORMとする。

罫線中僧

6504 富士電機

週足



日足



出所：ブルームバーグ

4～6月期 GDP の上方修正と円安、足元の景気拡大などを反映して、日経平均株価は 23,000 円台を回復した。しかしその一方、米国金利上昇からの外国人投資家の売越基調、新興市場の低迷、米中貿易摩擦からの産業機械・半導体・電子部品関連株の低迷などもあって、強さと弱さが混在するチグハグな展開が続いている。これは景気上昇期から景気後退期への移行期間の現象ではないか。主力銘柄の調整はまだまだ続きそうだ。

今回は上昇トレンドが続いている数少ない銘柄から富士電機を取り上げたい。パワー半導体などの電子デバイス部門が好調で、4月26日に2019年3月期が2期連続最高益の見通しとしたことを受け、大幅反発の長大陽線を示現、上昇トレンドを形成。25日&75日移動平均線を抵抗ラインに反発を繰り返しながら、8月29日に909円の戻り高値を付けた。移動平均線までの調整を待って買い出動に分が有ると見たい。

(しんのすけ)

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.1799%（税込）（1.1799% に相当する金額が 2,565 円未満の場合は 2,565 円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。